

## 記

グループ名	体育を学ぶ会		
研究テーマ	児童の運動の楽しさや学びを大切にする体育学習の在り方		
分 野	授業力向上 (対象校種) 小学校 (対象教科) 体育		
研究のねらい	跳び箱運動における「克服」「達成」「洗練」という3つの特性と自動の発達段階との関係を踏まえて、児童の持つめあての在り方について検討し、児童の学びを大切にした体育学習の在り方を探る。		
研究・活動の概要	<p>跳び箱運動の各発達段階における特性を踏まえて、学習過程やめあての持たせ方の工夫、教師の役割などを検討し、児童が主体的に学んでいく体育学習の在り方を探った。定期的に学修会を開き、単元計画や指導案の検討、実践授業の事前検討を行った。その後、実践授業・事後検討を行い、まとめたことを教育課題研究発表会で報告した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実践授業Ⅰ：柳生小学校 6年生「跳び箱運動」</li> <li>・実践授業Ⅱ：沖野小学校 4年生「跳び箱運動」</li> <li>・実践授業Ⅲ：小松島小学校 6年生「跳び箱運動」</li> </ul>		
成果と課題	<p>児童の目当てを整理・分類したり、児童のつぶやきや運動の姿などを検討したりしたところ、2つの成果が得られた。1つ目は、学習過程を児童の実態に応じて、2つの段階（基本的な技の行い方を知る段階・自分の課題に沿って活動する段階）に設定したことである。2つ目は、めあての持たせ方である。技のポイントの示し方や学習カードの工夫をすることで、活動が焦点化され、一人一人の学習の方向性を明確にすることができた。</p> <p>一方で、自分の能力に合っためあての持たせ方や、教師の児童の見とり（的確に見とる困難さ）が課題として挙がった。</p>		
構成員(3)名			
氏 名	所属・職名	氏 名	所属・職名
(代表)佐々木貴幸 青沼 佳 佐藤 裕子	小松島小・教諭 沖野小・教諭 柳生小・教諭		